

英 国 雑 記

県外会員 杉井 俊文

私が英国に滞在していたのは、現地の暦で 2002 年の 4 月から 2004 年の 3 月までの 2 年間である。平成で言うと、14 年から 16 年になる。というと、もう 10 年近く前のことになるので、時の過ぎるのは早い。英国から帰国して、都留の大学に戻ってから直ぐに山梨日本語ボランティアの会のことを知って、主にテキスト編纂委員会などの活動に参加したのも随分前のことである。

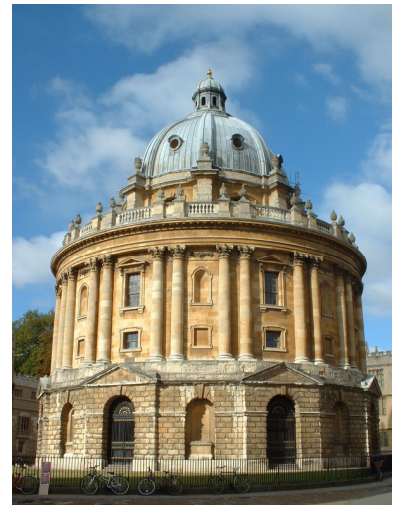
英国。

日本人が一時大変お世話になり、「日本は東洋の英国を目指す」と言ったのも、もう 100 年以上前のことで、日本が東洋の英国になったかどうかは分からないが、少なくとも現状においては英国以上の国になったと自負できる。それでも、やはり、過去の憧れからか、英国は日本人の留学先としては大人気である。

オックスフォード。

中国語では「牛津」と書らしい。牛が渡れるほどの浅瀬（テムズ川）という意味で、意識すれば牛津で合っているが、少々野暮ったく感じる。余談であるが、ケンブリッジは「剣橋」らしいので、半分だけ意識。

学生町としては世界的に有名で、全世界津々浦々から学生が集合している、イギリスにおける都留市のような町である。都留市の方が幾分住み心地が良い。



留学。

留学という制度を誰が考えたかは分からないが、日本人にとってはお馴染みの、また、お得意の制度で、遣隋使から明治維新まで、日本の発展を陰で支えた制度である。最近では、外国から学ぶこともあまりないので、専ら遊学で、観光かなんだか分からない。それでも海外経験は経験としては何らかの力になっている。そう信じたい。

留学生。

世界中から、その国を代表してやってきた英傑がその能力を高めるため、切磋琢磨している。以下に、かいつまんで紹介する。

ビルマ

ビルマ人留学生のリンさんは、ミャンマー政府とはあんまり仲のよろしくないグループの留学生で一生懸命勉学と、家政婦の仕事に励み、どちらかというところ家政婦業で成功し、郷里のビルマに家を新築した。

ベネズエラ

ベネズエラからの留学生のアウドレアさんは、やっぱりベネズエラ政府と仲のよろしくないグループの留学生で、私のことを最初は「FUJI」と呼んでいた。日本人＝富士山からかと思ったら、「SUGII」と自己紹介したのが「FUJI」に聞こえたらしい。

ベネズエラ独裁者のチャベス大統領が来訪した際、他のベネズエラ人留学生一味と、デモ抗議に行った。野次馬。アウドレアは「デモなんかに参加して、新聞に顔でも写ったら、国で家族がどんな目に遭うか！」などと言って、早々に立ち去ったので、大統領の顔を見ることができなかった。

そんなアウドレアも、アルバイトに精を出し、姓が変わって、英国人となった。

イラン

イラン人というか、アラブ圏の男の大半は、モハメドという名前らしい。数いるモハメドのなかでも、私が知る唯一のモハメドは、自分たちのことをイラン人とは言わずに「ペルシア人」と誇り高く名乗っていた。イランのお国で流行る日本は、『水戸黄門』と『一休さん』だそうだ。

コソボ

コソボが国になったかはよく知らないが、もめている最中に留学していたファッティオン君。英語で書くと FATJHON。太ったジョンだ。太い方が痩せているよりも望ましいというのは万国共通だろう。太君はいても、やせし君はいない。とはいっても、イギリス人女性は太子ちゃん過ぎる。ファッティオン君は太くはなく、筋骨隆々たくましい、良い男じゃったぞ。

メキシコ

メキシカンホアキンはマフィアの親玉の風体をしたヒゲ面の若者だ。ガハハハと笑うのがなんとも威圧的だが、付き合うと見た目ほど恐くない。自動車が好きで、ミニカーを町の商店で見つけて、「メイドインチャイナじゃないぞ！英国製だ。ちょっと高いけど買おう！」と喋って衝動買い。なんでも、お国に「ミニカーのちょっとしたコレクション」を持っているらしい。同じことを女の子たちに話すときは、「ミニカーの一大コレクション」を持っていると見栄を張っていた。今は、メキシコで日本車の販売をしている。

日本

日本人のトシくん（自分）は、山梨の大学からやってきた。来英時には、英語はチンプンカンプンで講義についていくのに、隣の人のノートを借りて苦労したが、卒業のころには英国人学生にもノートを貸すほどになって、首席で卒業した。という、明治時代の先輩日本人留学生ほどの成績は修められなかったが、一定の成果はあったと思いたい。帰国後は日本語ボランティアの会に入って、今は郷里の和歌山で勤めている。

日本語教育。

世界にはちょっと変わった人々がたくさんいるわけだが、留学なんぞしなくても、こういう人には日本でも会える。有難いかどうかはわからないが、そういう時代になった。外国人に日本語を教えるという活動は、留学と同じほどの効果がある。

国際化が叫ばれて久しいけれども、そりゃ、やっぱり英語を話せるようになることだよ。というのは、真っ赤な嘘で、日本人が日本語で日本のことを話せるようになれば国際化ではない。国際化する必要があるかどうかは疑問符がたくさん付くけれど、日本語を教えている先生方は最前線にいることは間違いない。



山梨来訪の希望は中々かないませんが、会の活動を応援しています。

平成 23 年 6 月